「この先どうすれば」

由布 別府 襲い続ける余震

「ドン」と突き上げられるような余震が続く。震度6弱を記録した由布市や別府市では17日、小学校などに避難した人たちが日中、いったん自宅に戻り、倒れた家具や食器を片付けた。「また激しいのがきたら…」「どうやって生活していけばいいのか」と、先行きへの不安をのぞかせた。

地震で割れた食器などを片付ける夫婦。冷蔵庫やガス台も床に倒れたという＝17日午後、由布市湯布院町川北

横倒しになったブロック塀。舗装した庭が大きくひび割れ、20㌢ほど沈下した部分もある。部屋の中はたんすや棚が倒れ、服や割れた食器でぐちゃぐちゃだ。

「たまげた。もう、泣くごたる」。湯布院町川北で1人暮らしをする女性(69)は、ため息をついた。

16日未明。倒れた靴箱を乗り越え、何とか自力で脱出した。車内で朝を待った後、大分市内の長女(49)宅に身を寄せた。17日午前から、長女、長男(46)と片付けを始めた。

時折、地鳴りのような音とともに揺れが襲う。「おじい。もう一回、大きい揺れがあったらつぶれる」。毎日、長女宅から片付けに通うつもりだが、「家を解体しようか…。市営住宅にでも入れてほしい」。

近くの団体職員男性(56)方は「ジェットコースターに乗っているような揺れ」で、あらゆる家財道具が吹っ飛んだ。「ずっと揺れている感じ」と妻(56)。

避難所の由布院小学校では、17日も約200人が一夜を過ごした。

16日夜から身を寄せる同町川西の佐藤アサ子さん(85)は家に帰ろうとも考えたが、午後から余震が頻発したのでもう一晩泊まることにした。大きな被害が出た1975年の県中部地震も経験したが、「今回の方が怖い。こんなに余震が続くのは初めて」と訴えた。

一方の別府市。避難所を開設している北部中学校では17日夜、日本防災士会県支部（田中昭次支部長）の約20人がカレーライスの炊き出しをした。2人の子どもと避難していた近くの女性(36)は「小さい子どもがいるので昨日から避難所に来ています。温かい食べ物はうれしい」と喜んだ。

現在、市内には小中学校の体育館計17カ所に避難所を設け、約700人が利用している。ピークの約5700人が自主避難した16日夜からは大きく減ったが、避難所に残った人からは「1人暮らしだから夜の地震が気にかかる。周りに人がいる方がいい」と不安の声が聞かれた。

市役所内の避難所は17日午後に閉鎖したため、佐藤ゆかりさん(34)は子どもを連れて別の避難所に移った。16日未明の地震以来、自宅には帰っていない。「たんすが倒れかかってきたり、本当に怖い思いをした。避難所ではゆっくり眠れないが、これで安全という見通しが立たないので戻る気になれない」と話した。

（取材班）

7市町で断水や濁り

地震の影響で県内は17日現在、7市町で断水や濁りなどの水道被害が続き、給水所を設けるなどして対応している。

九重町は791世帯で断水が続き、2千人以上に影響が出ている。修復時期は未定。17日は町内6カ所に給水車などを配置して対応した。町内野上に住む主婦衛藤久子さん(80)は「1日1回、ポリタンクに給水してもらっている。洗濯もできず我慢している。早く復旧してほしい」と話した。

日田市では天瀬簡易水道（天瀬町）で水源の水が濁り、267世帯で断水が続く。市によると再開の見通しは立っていない。

文化財21件に被害

地震の影響で県教委は17日、国指定重要文化財の旧日野医院（由布市湯布院町）など県内21件の文化財に一部損壊の被害が出たと発表した。

被害があった国指定の文化財はほかに▽岡藩主中川家墓所（竹田市、国指定史跡）▽岡城跡（同）▽旧竹田荘（同）▽角牟礼城跡（玖珠町、同）▽鬼の岩屋古墳（別府市、同）▽旧久留島氏庭園（玖珠町、国指定名勝）▽別府の湯けむり温泉地景観（別府市、国指定重要文化的景観）。

旧日野医院は本館の壁にひびが入り、周囲の石垣も一部崩落。岡城跡は本丸跡と下原門跡の石垣がずれ、旧久留島氏庭園は石垣が崩れた。別府市では湯の花小屋周辺（明礬）の石垣が一部崩れ、景観に影響が出た。

ほかに国登録文化財2件、県指定文化財11件が壁に亀裂が入るなどの被害が生じた。

海自の支援物資 大分の拠点到着

県は飲料水など送る

海上自衛隊が広島県から輸送した支援物資が17日、集積・輸送拠点となっている大分市の大分スポーツ公園に到着した。要請に基づき大分、熊本両県の被災地に運ぶ。昨年6月策定の県広域防災拠点基本計画に伴う措置で、運用は今回が初めて。

物資は飲料水や毛布、災害用トイレ、ブルーシートなど10㌧トラック3台分。呉市から輸送艦「しもきた」で大分市の大在港に運び込んだ。

一方、九州・山口9県災害時応援協定に基づき県は17日、熊本県に支援物資を送り、職員3人を派遣した。

県行政企画課によると、送ったのは豊後大野市の県豊後大野総合庁舎で備蓄していた飲料水（2㌧ボトル）5千本と毛布840枚。物資を集めている熊本県高森町に運び入れた。今後は毛布を追加して送る予定。

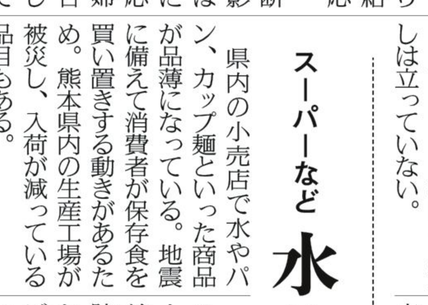
協定は東日本大震災を受けて2011年10月に締結。12年の大分県豪雨では県も支援を受けた。福岡、佐賀などの各県も順次、物資を送っている。

東北4県DMAT 九州で初の活動へ

竹田を拠点に熊本で

地震の被災地で医療活動をするため、宮城、岩手、福島、山形4県のDMAT（災害派遣医療チーム）が17日、大分県入りした。県によると、東北地方から九州にDMATが来るのは初めて。

厚労省の派遣要請に応え、医師や看護師らで構成する4県の8チーム・計40人が到着。竹田医師会立病院を拠点に南阿蘇村など熊本県内の6町村で活動する。



大分銀行ドームに運び込まれた飲料水、毛布などの支援物資

県民からの物資 県、提供求めず

県は17日現在、県民から被災地への支援物資を呼び掛けていない。県内は災害に備えた県の備蓄や、災害時の協定を結んでいる流通業者からの調達で対応できているという。

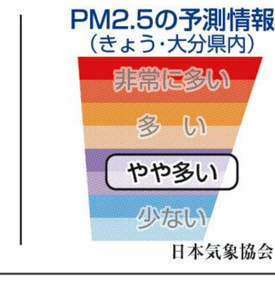
県商工労働企画課は「今後足りなくなることがあれば広く県民に協力を呼び掛けたい」としている。

▼ジェットスター2便欠航

17日、関東地方の強風の影響で空の便が乱れた。

欠航したのは成田発大分行きジェットスター607便と折り返しの606便。成田で他路線便の目的地変更が相次ぎ、使用機材が準備できなかったため。320人に影響が出た。日航、ソラシドエア、全日空の計8便も最大1時間15分遅れた。

きょう午前9時



市岡君が優勝

小学生将棋名人戦

付属小4年生「プロ棋士目指す」

優勝トロフィーを手にする市岡真悟君＝17日、東京都内のホテル

【東京支社】日本一の小学生棋士を決める「第41回小学生将棋名人戦」（日本将棋連盟主催）の決勝大会が17日、東京都内で開かれ、大分県代表の市岡真悟君(9)＝大分大学付属小4年＝が優勝した。過去の優勝者リストには羽生善治名人や渡辺明竜王ら著名なプロ棋士が名を連ねる伝統の大会。市岡君は優勝の喜びとともに「プロ棋士を目指す」と次の目標を語った。

この日は3月に開かれた西日本・東日本の各大会を勝ち抜いた各2人が出場した。市岡君は準決勝を手堅い攻めで危なげなく勝利。後手番となった決勝は相手の中飛車に居飛車で対抗。守勢だったが、持ち駒をため鋭い反撃で寄せきった。市岡君以外の3人は6年生だったが、年の差を感じさせない落ち着いた打ち方で勝利をつかみ取った。

表彰式で賞状とトロフィーを手渡された市岡君は「決勝は苦しかったが、勝つことができてうれしい」と笑顔。別室で観戦していた母のいずみさん(40)は「落ち着いて打てて良かった。プロ棋士になる夢を実現できるよう支えたい」。父の宗悟さん(37)は「大分、熊本では地震が相次ぎ大変な時期。少しでも明るい話題になれば」と話した。

5歳で将棋を始めた市岡君。友達に駒の動かし方を教わり、別府市の将棋教室に通って力を付けた。目標とする棋士は深浦康市九段とアマ最強の早咲誠和棋士。「粘り強い将棋を指せる棋士になりたい」と話す。

市岡君の出場した決勝大会は5月1日午後3時から、NHKEテレ「決定！こども将棋名人」で放映される。

（吉良政宜）

中学教諭の逮捕で 国東市教委が謝罪

知人の車のタイヤをパンクさせたとして国東市の中学校教諭が器物損壊の疑いで逮捕されたのを受け、市教育委員会は17日、市内で記者会見を開いた。加藤正和教育長らは「生徒、保護者らに迷惑を掛け、深くおわびする」と謝罪し、事実関係を確認して処分を判断するとした。

逮捕されたのは国見中学校教諭の安藤富勝容疑者(52)＝国東市国見町野田。大分中央署によると、逮捕容疑は7日午後6時20分ごろ、大分市羽屋の駐車場で女性(45)の車の後輪タイヤ2本をパンクさせた疑い。

市教委は会見で安藤容疑者について「温厚でまじめ。教科、生徒指導に熱心に取り組んでいたので驚いている」と説明。7日は私用のため年休を取っていたという。生徒には18日の全校集会で説明する予定。

大分市などで夏日 6月並みの暑さ

県内は17日、南から暖気が入り込み、日射も強まった影響で気温が上昇した。大分地方気象台によると、大分市で26・8度（平年19・7度）を観測するなど6地点で夏日となった。7地点で今年の最高気温を更新し、6月並みの暑さとなった。

気象台によると、沿岸部を中心に気温が上がった。この他の各地の最高気温（カッコ内は平年）は▽佐伯 26・7度（19・6度）▽蒲江 26・4度（20・1度）▽杵築 26・3度（18・9度）▽宇目 25・9度（20・2度）▽武蔵 25・7度（18・1度）―など。

18日は気圧の谷の影響で、県内全域で午前中は弱い雨が降りそう。午後から回復する見込み。日中の予想最高気温は▽日田 21度▽大分 20度▽中津、佐伯 19度―で平年並みの見通し。

水などのペットボトルが消えた陳列棚＝17日午前、大分市

スーパーなど 水や保存食、品薄に

県内の小売店で水やパン、カップ麺といった商品が品薄になっている。地震に備えて消費者が保存食を買い置きする動きがあるため。熊本県内の生産工場が被災し、入荷が減っている品目もある。

大分市のスーパー「トキハインダストリー春日浦フードスタジアム」は16日午前中、ペットボトルの水が陳列棚から消えた。他にもお茶やカップ麺、レトルトご飯などが品薄に。水を買いに来た同市内の主婦(39)は「地震があり、備蓄がないと気付いて買いに来た。みんな考えることは同じですね」。店は「水は工場が被災したメーカーがあり、しばらく入荷はなさそう」と話す。

同市内のドラッグストアも「16日は店を開けたらお客が殺到し、水とパンはすぐに売り切れた」（女性店員）、臼杵市のコンビニエンスストアは「熊本の工場が被災し、パンの入荷が少ない」（男性店長）という。

日田市のイオン日田店では、輸送ルートの変更でおにぎりや総菜の入荷が遅れ気味。一方、水の買い占めは起きておらず、別府市のゆめタウン別府も「水は需要が上がっているが、銘柄を選ばなければ在庫はある」としている。

避難所に本紙を配達

由布院西部、東部PC

新聞に目を通すお年寄り

大分合同新聞の由布院西部、東部の両プレスセンターは16日に本紙夕刊、17日に朝刊を、由布市湯布院町の避難所になっている由布院小学校などに届けた。両日とも約千部を配達した。

17日に同小体育館で朝刊を読んでいた町内川上の旅館経営者伊達直樹さん(42)は金鱗湖の鳥居が損壊した写真に驚き、「地震の風評が気掛かり」と話した。

四重奏

◇…法的トラブルの解決を支援する「法テラス大分」（鈴木宗厳所長、大分市）は17日、同市中心部で街頭宣伝活動をした。職員ら15人が通行人にパンフレット500部を配り、業務内容をアピールした。（写真）

◇…法テラスが全国一斉に設立された4月10日に合わせて毎年実施している。今年は設立10周年。法制度や相談窓口の紹介、弁護士による法律相談などの業務をしているが「まだ認知度が低い」と法テラス大分。

◇…鈴木所長は「九州で相次いだ地震の被害で今後、住宅ローンや保険などに関する法的問題が増えると予想される。積極的に法的支援をしていきたい。悩む前に相談を」。問い合わせは法テラス大分（☎0050・3383・5520）。